

平成２８年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に

記載する評定等に関する大阪市の方針「Ｑ＆Ａ」〔改定版〕

～中学生・保護者・市民の皆様の疑問点にお答えします～

平成２７年４月１３日

大阪府教育委員会

<用語について>

・調査書

受験時に志願書とともに学校から提出する書類で、一般に**内申書**と呼ばれています。

・調査書に記載する評定

一般に**内申点**と呼ばれるもので、平成２７年度選抜までは１０段階で記載し、平成２８年度選抜からは５段階で記載する「５」「４」といった**評点**のことです。

【Ｑ１】なぜ大阪市が独自にテストをするのですか？ 大阪府が内申点の統一基準を決めたので、市独自テストは必要ないのではありませんか？

【Ａ１】大阪府内全体で入学者選抜の公平性を確保するため、大阪府教育委員会が内申点の府内統一基準を決定したことは、大阪府教育委員会としても高く評価しています。

大阪市においては、府内統一基準によって中学校間での公平性を担保することに加え、生徒間でも公平性を担保するため、第３学年の５教科（国語・数学・社会・理科・英語）について、全ての大阪市立中学校が参加するテスト（以下、「大阪市統一テスト」という。）を２学期に実施することにしています。

大阪市統一テストにおいて市内で上位の得点を得た生徒には、一定の内申点を保証します。ただし、大阪市統一テストだけで内申点が決まるわけではなく、中学校での日常の学習の成績も内申点につながる仕組みです。

【Ｑ２】大阪市統一テストは、高校入試を前にした中学３年生にとって、大きな負担が増えることになりませんか？

【Ａ２】現状でも、中学３年の２学期には、各学校内で実力テストが行われ、成績評価等に活用されています。複数回の実力テストのうちの１回分が大阪市統一テストに置き換わるとすれば、実質的に生徒の負担が大きく増えるわけではないと考えられます。

また、大阪市統一テストによって、評価の公平性が増すのみならず、生徒が自らの学力を的確に把握し、学力向上への意欲を高めるとともに、学習指導や進路指導の資料の一つとしても活用できるなど、メリットの方がはるかに大きいと考えています。

【Q 3】大阪市統一テストの結果、全市の得点分布において上位 6 %に入る生徒には、必ず内申点「5」を与えるなどという方法は、相対評価と同じではありませんか？

【A 3】絶対評価の本来の意味は、学校間で共通の評価尺度を用いる評価です。大阪市教育局の方針は、大阪市統一テストという共通の評価尺度を活用して公平・公正な「真の絶対評価」を実施することです。

具体的には、大阪市統一テストの全市の得点分布において、上位 6 %に入る生徒には必ず評点「5」を与え、上位 18 %に入る生徒には必ず評点「4」以上（学校の判断で「5」もありうる）を与えます。これは、全市共通の評価尺度である統一テストの結果を生徒個々人の評定に反映するという点で、「真の絶対評価」であると言えます。

【Q 4】大阪市の方針では、学力を客観的に評価して評定（「5」「4」・・・の評点）を決めるとし、「関心・意欲・態度」の評価は特筆すべき点を文章で調査書に記載するとしています。なぜですか？

【A 4】10年以上前に相対評価から「いわゆる絶対評価」に切り替えた他の都道府県では、「いわゆる絶対評価」が客観的な評価の困難な「関心・意欲・態度」の観点を重視する観点別評価であることから、生徒や保護者にわかりにくい不透明な評価基準への戸惑いや、教師による主観的な評価ではないかとの不信感が生まれました。多くの学校が、文部科学省や都道府県教育委員会の方針どおり、生徒の授業中の様子や宿題の提出状況などに基づいて「関心・意欲・態度」の評価を作成した結果、生徒や保護者から不信の目で見られるのであれば、お互いにとって不幸です。また、説明責任にそなえた評価に時間を取られるとの声も少なくありません。

大阪市教育局の方針は、他都道府県で実際に起こった問題を踏まえたものです。

【Q 5】大阪市統一テストについて、大阪府内に2つのルールができてしまうとか、中学生や保護者に混乱が生じるといった批判がありますが、本当でしょうか？

【A 5】大阪市統一テストとその活用によって、府内に2つのルールができてしまうという主張は、まちがいです。大阪府教育委員会が定めた府内統一基準は、府内の中学校間の公平性を担保するための大切なルールですから、大阪市教育局および大阪市立中学校も、しっかりと守ります。それに加えて、大阪市においては、生徒間でも公平性を担保するため、大阪市統一テストを実施し、同テストで市内上位の得点を得た生徒には一定の内申点を保証するのです。

大阪府教育委員会も大阪市統一テストとその活用を認めています。